

世帯属性別の状況

1 年間収入五分位階級別の状況

(1) 貯蓄現在高の年間収入階級間格差は3.4倍

勤労者世帯について年間収入五分位階級別に貯蓄現在高をみると、年間収入が高くなるに従って貯蓄現在高も多くなっており、年間収入が最も低い第1階級が631万円、年間収入が最も高い第5階級が2170万円となっている。また、貯蓄現在高の年間収入階級間格差（第5階級に対する第1階級の貯蓄現在高の比）は3.4倍となっている。

貯蓄の種類別割合をみると、通貨性預貯金の割合は第1階級で16.3%と最も高く、第5階級では13.0%と最も低くなっている。定期性預貯金の割合は第1階級から第5階級までは年間収入が高くなるに従って低くなっており、第1階級で47.7%、第5階級では41.4%となっている。第5階級では44.8%と平均の43.8%をわずかに上回っている。有価証券の割合は年間収入の高い階級ほどおおむね高く、第1階級で4.3%、第5階級では9.6%となっている。

一方、年間収入五分位階級別に負債現在高をみると、年間収入が高くなるに従って負債現在高も多くなっている。年間収入が最も低い第1階級が246万円、年間収入が最も高い第5階級が893万円となっており、負債現在高の年間収入階級間格差（ $\frac{893}{246}$ ）は3.6倍となっている。

負債の種類別割合をみると、住宅・土地のための負債の割合は年間収入が高くなるに従っておおむね高く、第1階級で88.2%、第5階級では93.7%となっており、その他の階級でも90%以上となっている。住宅・土地以外の負債及び月賦・年賦の割合は年間収入が低い階級ほどおおむね高くなっており、住宅・土地以外の負債は第1階級で7.3%、第5階級では4.6%、月賦・年賦は第1階級で4.5%、第5階級では1.7%となっている。

表6 年間収入五分位階級，貯蓄・負債の種類別現在高（勤労者世帯）

項目	平均	第階級 (～456万円)	第階級 (456～607)	第階級 (607～771)	第階級 (771～990)	第階級 (990～)
金額（万円）						
年間収入	748	349	532	685	873	1302
貯蓄現在高	1280	631	919	1201	1477	2170
金融機関	1224	622	892	1151	1398	2057
通貨性預貯金	181	103	143	156	215	289
郵便局等	46	33	41	40	59	57
銀行等	135	70	102	116	157	231
定期性預貯金	560	301	402	512	611	972
郵便局等	236	127	184	219	277	373
銀行等	323	173	218	294	334	598
生命保険など	387	192	290	412	454	587
有価証券	96	27	57	71	117	209
金融機関外	56	9	27	50	79	114
構成比（％）						
貯蓄現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
金融機関	95.6	98.6	97.1	95.8	94.7	94.8
通貨性預貯金	14.1	16.3	15.6	13.0	14.6	13.3
郵便局等	3.6	5.2	4.5	3.3	4.0	2.6
銀行等	10.5	11.1	11.1	9.7	10.6	10.6
定期性預貯金	43.8	47.7	43.7	42.6	41.4	44.8
郵便局等	18.4	20.1	20.0	18.2	18.8	17.2
銀行等	25.2	27.4	23.7	24.5	22.6	27.6
生命保険など	30.2	30.4	31.6	34.3	30.7	27.1
有価証券	7.5	4.3	6.2	5.9	7.9	9.6
金融機関外	4.4	1.4	2.9	4.2	5.3	5.3
金額（万円）						
負債現在高	607	246	473	637	788	893
住宅・土地のための負債	562	217	429	593	734	837
住宅・土地以外の負債	31	18	27	30	39	41
月賦・年賦	14	11	16	13	15	15
構成比（％）						
負債現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
住宅・土地のための負債	92.6	88.2	90.7	93.1	93.1	93.7
住宅・土地以外の負債	5.1	7.3	5.7	4.7	4.9	4.6
月賦・年賦	2.3	4.5	3.4	2.0	1.9	1.7

図5 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高（勤労者世帯）

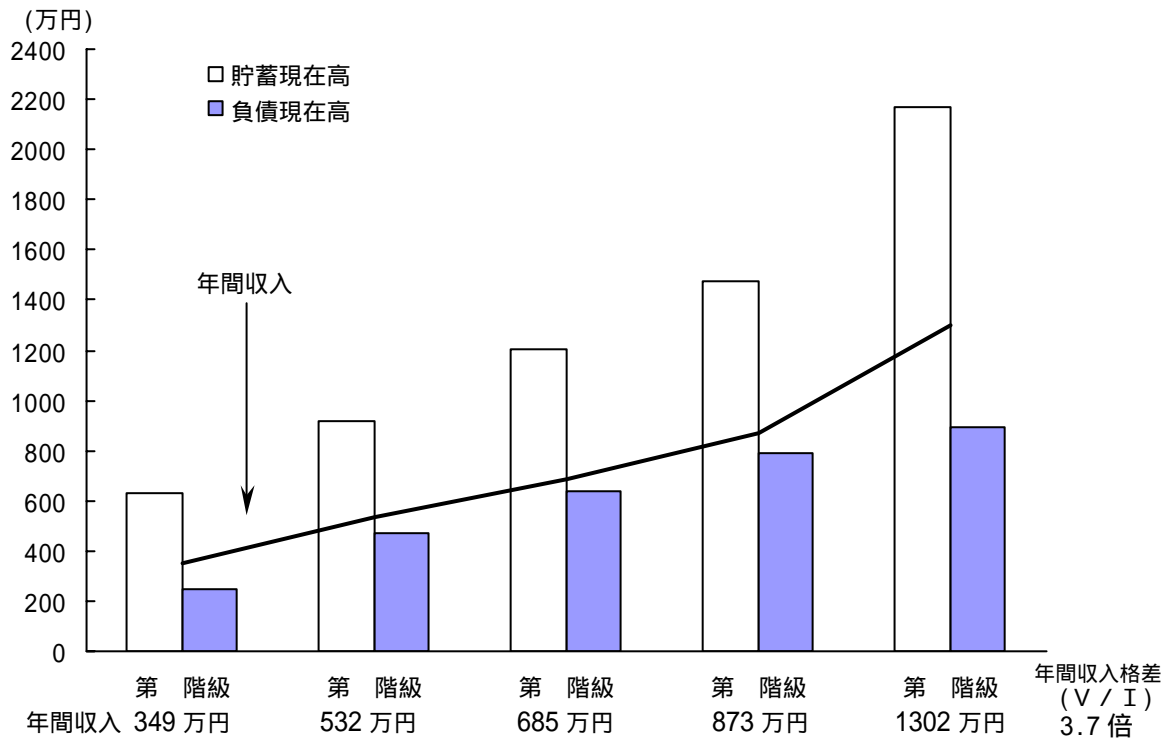
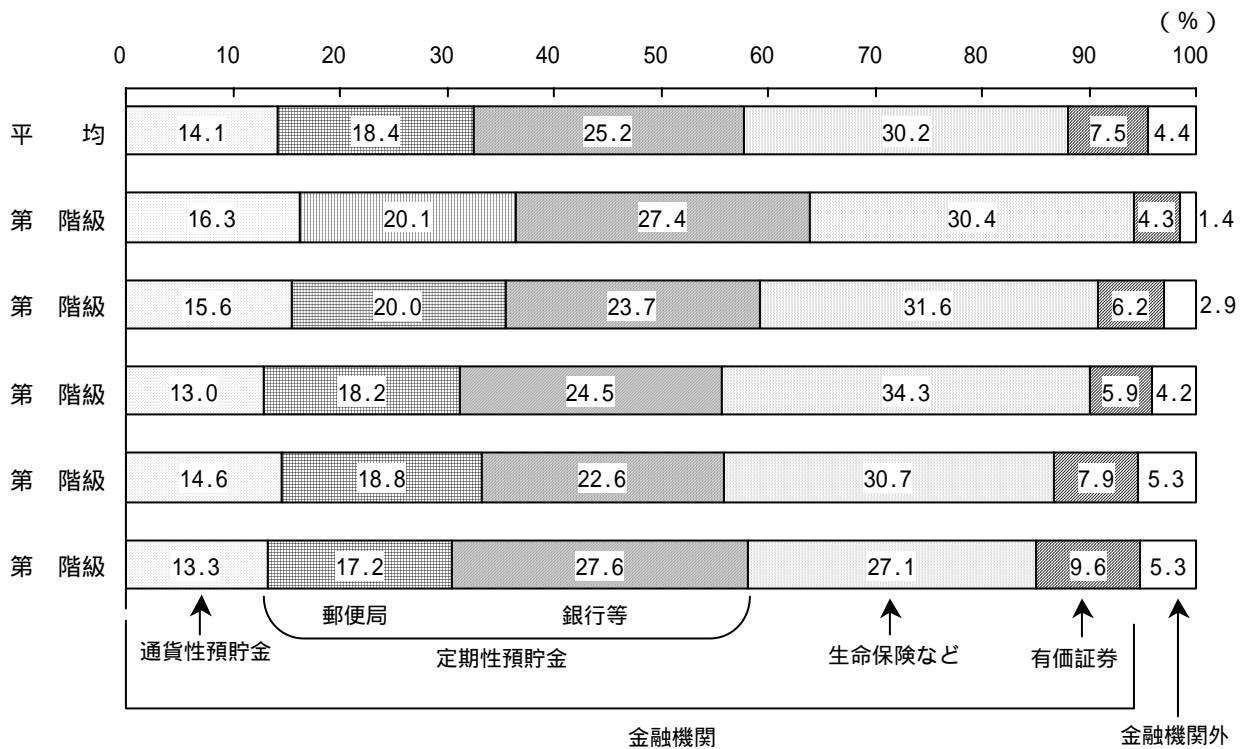


図6 年間収入五分位階級，貯蓄の種類別現在高の構成比（勤労者世帯）



(2) 負債保有世帯のうち第 階級から第 階級で負債超過

勤労者世帯のうち負債を保有している世帯について年間収入五分位階級別に負債現在高をみると、年間収入が高くなるに従って負債現在高も多くなっており、年間収入が最も低い第 階級が 674 万円、年間収入が最も高い第 階級が 1448 万円となっている。

純貯蓄額（貯蓄現在高 - 負債現在高）をみると、第 階級から第 階級で負債超過となっており、第 階級で 378 万円と超過幅が最も大きくなっている。一方、第 階級では 130 万円の貯蓄超過となっている。

図7 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高（負債保有勤労者世帯）

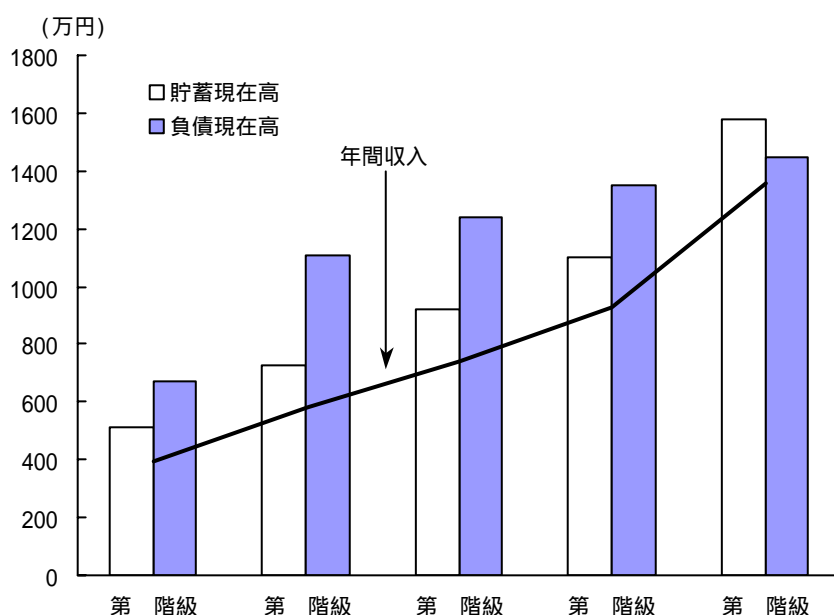


表7 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高（負債保有勤労者世帯）

(万円)						
項目	平均	第 1 階級 (~ 503万円)	第 2 階級 (503 ~ 658)	第 3 階級 (658 ~ 830)	第 4 階級 (830 ~ 1042)	第 5 階級 (1042 ~)
年間収入	799	393	583	738	925	1355
貯蓄現在高	969	515	728	923	1101	1578
負債現在高	1164	674	1106	1238	1352	1448
貯蓄 - 負債	-195	-159	-378	-315	-251	130